

群れ^む星^{ぼし}になつた乙女^{おとめ}たち

美しい姉妹たちに、こう声をかける若者がいました。

「娘さん 娘さん 遊んでないで いつしよに畑を耕そうよ」

「いやだわ いやだわ 汗をかくし 泥んこになるもの」

「汗をかいたら 泥んこになったら 川で 洗えばいいじゃないか」

「いやだわ いやだわ 川で洗ったら 流されちゃうもの」

「流されたら 流されたら 葦につかまらや いいじゃないか」

「いやだわ いやだわ 葦につかまったら 手が切れちゃうもの」

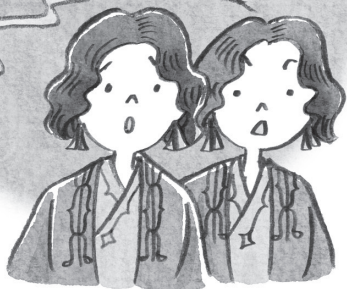
「切れたなら 切れたなら わたしが包帯 巻いてやろう」

「いやだわ いやだわ あなたにさわられるくらいなら」

「いっそお空の果てに行き お星さまになったほうがまし！」

それを見ていたカムイが、眉をひそめ、こうおつしやいました。

「おまえたち、そんなに畑仕事をするのがいやなら、空の果てへと行ってしまえっ！」



そんなわけで、いまでも冬の空を見あげると、群れ星になった姉妹たちが、
ひとつかたまりになって、青白く光っているのが見えます。



和名で「すばる」、西洋名では「プレアデス星団」と呼ばれる星々のことです。